

発表番号: 2D12a02
 発表日時: 3月27日(大会2日目) 9:11~9:22
 演題: 新規脳梗塞治療薬 SMTP の非臨床および臨床開発
 発表者: ○蓮見恵司、西村直子、長谷川啓子、澤田裕伸、鈴木絵里子
 連絡先氏名(ふりがな): 蓮見恵司(はすみけいじ)
 住所: 〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8
 所属: 国立大学法人 東京農工大学、株式会社ティムス
 電話: 042-367-5710; FAX: 042-367-5708; e-mail: hasumi@cc.tuat.ac.jp

1. 研究の成果の概要

SMTP は、カビの一種 *Stachybotrys microspora* がつくる化合物群であり、血栓を溶かす作用と炎症を抑える作用を併せ持つ。これまでに SMTP 化合物のいくつかは、多様な脳梗塞モデルで著効を示すことを明らかにした。SMTP 化合物の一つについて医薬開発を行い、非臨床試験を完了し、臨床第 I 相試験を開始した。

2. 研究のトピックス性

これまで有効な治療法が確立されていなかった多様な脳梗塞患者を救う、革新的なメカニズムに基づく新薬の開発。

3. 研究の波及効果

脳卒中(その7割程度が脳梗塞)は世界の死因の第3位であり、致死率の高さに加え、麻痺などの後遺症による本人および家族の負担は大きく、これに伴う医療費や介護費用の負担も社会問題となっている。一方で脳梗塞の治療薬は限定的であり、急性期治療の唯一の推奨薬でも、ごく一部の患者にしか投与できない。SMTP の医薬実用化により、多様な脳梗塞患者を救うことが可能になり、患者本人の救済とともに、医療費、介護費用等の削減を通して社会福祉の向上にも貢献することができる。

4. 参考資料

J Biol Chem **289**, 35826–35838 (2014); *J Cereb Blood Flow Metab* **34**, 235–241 (2014); *FEBS J* **277**, 3675–3687 (2010).

日本経済新聞「脳梗塞の新薬治験へ」2011年12月5日朝刊。

<用語説明>

脳梗塞: 脳の動脈に血栓が詰まることにより起こる病気。重度な後遺障害や突然死をもたらすことから、新たな治療薬が待望されている。

非臨床試験: 新薬の開発に必須な、安全性、毒性、薬効、製剤などの検討を動物を用いて行う試験。

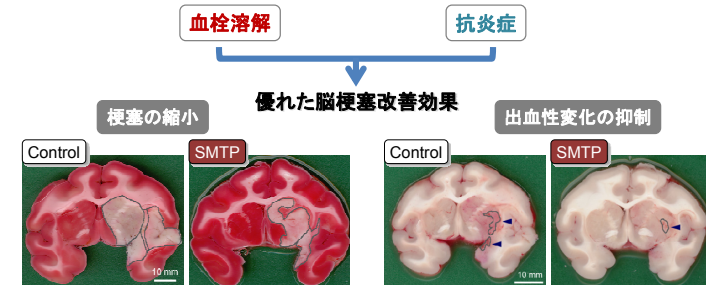
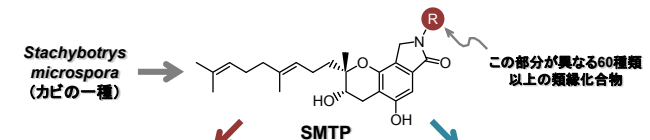
臨床試験: 非臨床試験の結果を受けて、ヒトでの安全性、忍容性、有効性を調べる試験。これらを、第 I 相から第 III 相試験まで、段階を踏んで慎重に検討する。

発表番号: 2D12a02

演題: 新規脳梗塞治療薬 SMTP の非臨床および臨床開発

研究トピックの図

TAT SMTP—*Stachybotrys microspora* triprenyl phenol TMS



TAT 脳梗塞急性期の治療法 TMS

治療時間枠の拡大、多様な病態への適応、出血リスクの軽減が課題 ⇒ SMTP により解決

